

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100282		
法人名	株式会社 サン・リンク		
事業所名	グループホーム ころろ Aユニット		
所在地	島根県松江市馬潟町108-1		
自己評価作成日	令和4年3月1日	評価結果市町村受理日	令和4年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	令和4年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の持てる力を発揮していただけるようなケアに取り組んでいる。
 スタッフはゆったりとした時間づくりに務めており、利用者も自分のペースで生活を送れている。
 楽しみごとの計画も定期的に行われており、利用者自身に季節感を感じていただけるような配慮が見られる。
 日々のスタッフの対応は非常に丁寧であり、利用者の権利や人格を尊重した気持ちが見受けられるのも長所の一つといえる。
 これまで看取りケアを行ってこなかったが、スタッフの同意のもとご家族、主治医と連携し、看取りケアに取り組み始めた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「今以上の良い施設にしたい」という思いで丁寧に細やかなケアを行い、利用者一人ひとりが持っている機能を引き出しながら個性に合わせてゆったり穏やかに生活出来るように支援している。外出、散歩が思うように出来ない今、屋内で出来る風船バレー等のレクリエーションや体操をして体を動かしている。又、これまで培って来た技術や特技を生かした作品作りが出来るよう支援して利用者の気持ちが落ち込む事が無いように寄りそい、自信と安心感をもって落ち着いて過ごして貰えるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中の施設を理念としているがコロナ渦にて十分な活動が行えないのが現状である。	理念を常に念頭におき実践することに努めている。利用者一人ひとりの出来る事、出来ない事をユニット会議や連絡ノートで把握して利用者のペースに合わせて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に多く参加してきたがコロナ渦にて困難な状況である。	感染症対策で地域行事への参加は出来ないが、事業所に対しての意見、提案、相談等が出来る関係は継続している。公民館の集まりに出席し事業所の役割を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談を受けた場合、実践で積み上げた認知症の方の理解や支援方法など、分かりやすくアドバイスできるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で開催し、利用者の現況報告、サービスや取り組みについて報告し、他機関との情報共有をし、様々な意見をもとに業務改善を心がけている。	コロナ禍で家族や地域代表の参加はないが今迄と同じよう開催している。地域の情勢や他の事業所の取り組み状況を聞き今後の活動の動機づけとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域推進会議や直接問合せを行い、相談している。	現在は市との連絡ごとなどはファックスで行うようになり、直接話し合って取り組むということが以前より稀薄になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	これまでの社内研修の知識から職員は常に介助方法の話し合いを持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の身体拘束委員会で委員が中心となり勉強会を開催している。グレーゾーンや威圧的な言葉使いをする事が無いように職員同士で注意し合い気を付けて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の知識を身につけており、虐待のない介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修、外部研修等で権利擁護に関する制度の理解ができるように計画している。現状では外部研修への参加は難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には不明な点が残らないように、説明をしているが、その後も不明な点があればいつでもお問い合わせ頂ける関係が作れるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、要望があれば対応している。ケアプラン更新時等にもご家族様と話し合う機会を持ち意見を聞くよう心がけている。	日頃から家族とコミュニケーションを図り意見を聞くことに努めている。訓練の要望等あり生活の中での訓練を出来る事から行い、家族には丁寧に説明し納得して貰っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回行う会議等で、職員の意見や提案を聞き施設運営に反映されるようにしている。	日頃の支援の中で職員同士で話し合い、出された意見は管理者と各ユニットのチーフが全体会議に提案し、運営面やサービスの改善に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を設けるなどし、各自の向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修でケアの向上を図り、各自の力量を把握した上で、外部研修に参加する機会を持てるようにすることが今後の課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会などで交流を図っていたが現在コロナにて開催されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階から、ご本人ご家族の困っていること・不安・要望など十分に聞かせていただき、安心できるようなサービスの提供を行うことでより良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話を伺い、不安を解消できるようなサービスを提供することで安心していただけるような、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で、ニーズを掘り起こし、どんな支援が必要なのかを導き出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの力に応じた作業を一緒に行なうことで、暮らしを共に楽しみ、同士の様な関係を築けるよう努めている。(洗濯物を干したり畳んだり、食器洗い、モップを使った掃除)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員で本人を支えるのではなく、ご家族様にも出来るだけ協力して頂き、共にご本人を支える関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会制限も設けており難しい支援となっている。	コロナ禍であり今は予約制のリモート面会を実施しているが、いつでも利用者の希望があれば電話で連絡が取れるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、感情の変化を理解したうえで、ご利用者様同士が関わり、支え合える関係がもてるように橋渡しができるような支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的な支援は行なっていないが、連絡を受けたり、相談があった場合は気持ちよく対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネージャーが中心となり、ご本人や、ご家族様の思いを傾聴するようにしている。	しぐさから希望や想いを感じ取り、意向の把握の難しい場合もこれまでの生き方を大切にしたい支援を行っている。着たい服やこれまでどおりスポーツ新聞を読む等の希望を受け止め、家族の協力も得て支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、ご本人から情報を聞き取り、ご家族やケアマネージャーからの情報収集を行なうだけでなく、日々の関わりの中で、スタッフが得た情報も把握共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居当初の様子だけでなく、入居後も状況変化を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で、ご利用者様の変化や援助内容について検討している。	利用者、家族の希望を取り入れ、習字を教えていた人は継続して習字を楽しむ等、得意な事を活かしながら生活出来るように介護計画を作成している。現状に合わせてその都度見直している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録と連絡ノートを活用し、常に職員間で情報を共有することで、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに合わせ、柔軟な対応を行っていきけるよう努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握しつつあるが、それを生かす状況に現在はない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	苑の協力医療機関が隔週で訪問診療を行なっている。他院を希望される場合は、ご家族様の協力や苑対応で受診を行なっている。	希望するかかりつけ医を受診し、事業所の協力医に変わる利用者が多いが、今迄どおりのかかりつけを継続する人もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には、日々の心身の状態等の情報、気付きを伝え、指示を受けながら、ご利用者様が、適切な受診や看護を受けられるように支援している。(週1回定期的に訪問)そのほか必要な時には電話連絡をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の了解を得たうえで、医療機関へ情報提供をケアマネージャーから行う。その後も医療機関と情報交換を行い、退院調整がスムーズにできるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していくことを想定してご本人・ご家族様・協力医・苑が常に連絡を取り合いながら現状を見据えつつ、最良な援助につながるようにと考えている。職員が常に間に入り、情報をつながけながら話し合い共有できるようにしている。	今年度、家族から希望があり始めて看取りの支援を行った。コロナ禍で面会制限を設けていたが、利用者の希望で個室で家族と面会して貰った。職員は不安はあるが最期まで介護したいとの思いでみんなで取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの活用と内部研修を行なう事で、急変時や事故発生時の対応が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し、内1回は消防署指導のもと行っている。災害グッズや非常食を準備している。	事業所の防災委員会を中心に利用者参加で訓練を行っている。地域との協力体制も整い支援者も決まり連絡網も作成している。コロナ禍でもありフェイスシート、防護服等も備蓄品に追加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳の気持ちを忘れず接するように研修し、日常的に心がけている。	研修を行い利用者を敬った言葉使いや声掛けを行い、無理強いせず一人ひとりのリズムに沿った支援を心掛けている。トイレ、居室のドアもきちんと閉めて対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事が複数ある場合は、選択していただく様に配慮している。入浴後の着替えなど判断・決定の機会をもっていただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになりがちであるが、本人のペースを大事にしていきたい。ご自分のペースで一日を過ごせるように見守るなどの対応も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれができるよう、個々の力が最大限に発揮できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は調理作業は行っていないが、後片付けや食器洗いなど生活の一部をになっ頂いている。	法人施設から調理した食事が届くので準備は出来ないが食器洗い等出来る事は行って貰っている。雑祭り等の行事食には普段より華やかな食事を提供し食事を楽しんで貰えるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量を把握できるようにしている。その方の状態に合わせて、食事の量や形態(刻み・とろみ・ミキサー)の変更を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援を毎食後に行なっている。協力歯科医院へ必要時訪問診療を依頼し、診察と合わせて口腔ケアの指導の助言を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は出来るだけトイレで行なえるよう支援し、一人ひとりの動作や排泄パターンに応じ、声かけ誘導を行っている。	利用者の排泄のタイミングを共有し、適切な見守りや介助で少しでもトイレで快適に排泄出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用する場合もあるが、水分量や食事摂取量、運動量など考え、関わりで改善できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	湯加減や入浴時間など体調に配慮しながらリラックスできる貴重な時間として関わるようにしている。入浴が困難な方には機械浴で対応している。	利用者の好みの温度や入浴時間を把握し、体調や皮膚の状態にも配慮して気持ちの良い入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースのソファで自由に休息を取って頂く。夜間は室温や寝具の状態、入眠状況等の確認を行い安心して良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤師の管理・指導の下、服薬介助確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが喜びのある生活が送れるように、その人の力に応じた役割を担ってもらい、個々の希望に沿った気分転換にも対応できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状としては受診以外の外出は行われていない。	定期的に駐車場にテーブル、椅子を出しておやつを食べたり外気浴を行うようにしている。全体としての自由な外出は出来ないが、個別には夫婦でドライブを楽しめるような支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時などに職員が同行してお金を所持し買い物をしていただいていたが現状では外出自体がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望の際には、他の入居者様に配慮し、事務所で掛けて頂き、安心して過ごして頂けるようにしている。また手紙が届いた際には直接本人に手渡している。遠方にお住まいのご家族様へおたよりを送られる利用者様へ便せん封筒等を準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	珪藻土の土壁を使用し、木のぬくもりのある内装となっている。浴室が広いため、冬場は備え付けのヒーターでしっかりと温め、ヒートショック防止をしている。	利用者が作った作品を飾り楽しく明るい雰囲気でも過ごせるようにしている。今は雛祭りの作品を置いている。湿度計、温度計で乾燥を防止し健康面にも留意して快適な空間になるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファや畳など自由に過ごして頂ける場を設け、身体的な事も含め個人の居心地の良い場所となるように日々工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みの物を置き、畳の生活に慣れてる方にはそれに近い状態を作り、手すりが必要であればご本人・ご家族様と相談しながら設置するなどして、出来る限り快適に過ごせるよう工夫している。	お気に入りの物や家族の写真を置いている。家族と相談して安全面にも考慮した居室にしている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置。トイレを示す表示や居室前の名札を大きくするなどわかる工夫をしている。		